

案① 若者の自立とウェルビーイングの実現を目指して

若者が周囲に支えられながら自立し、身体的・精神的・社会的に幸せな状態で暮らしていけるようになることを目指します

- ・ こども大綱には全ての子ども・若者のウェルビーイングがうたわれており、計画には大綱の理念を共有すべきであることから①を選択する。感動する心、感謝の気持ち、思いやり、他者と協調する心、向上心など、生きる力の一つである「人間性の豊かさ」を目指すことがウェルビーイングにつながると考えるため、「若者の人間性を豊かにし、ウェルビーイングの実現を目指して」と修正したい。
- ・ 支援が必要な人にとってまぶしすぎない①がよい。
- ・ 自立できない人にとっては苦しいか。
- ・ ウェルビーイングという馴染みのない言葉を使用しているが、基本理念としては誰もが分かりやすいものがない。

案② 若者の自律と幸せの実現を目指して

若者が自分のやりたいことを見つけ、周囲に支えられながら主体的に取り組み、幸せな状態で暮らしていけるようになることを目指します

- ・ 若者の幸せを目指すことが分かりやすい②がいいと思う。
- ・ 親としては子どもには「自律」してほしいと思う。

案③ 若者が社会の一員として、多様な価値観や個性が尊重されるまちの実現を目指して

若者が社会や地域の中に自分の居場所を見つけ、それぞれの価値観や個性を大切にしながら暮らしていけるまちになることを目指します

- ・ 「社会の一員として」という人とのつながりを思わせる文言がありいいと思う。個人が大切であることと同時に他とのつながりが大切で、さらにそれは一方的に支えられるものだけでなく、その人にとっての有用感もなくはないと感じる。若者の力も必要だという意味も持たせたいと思う。
- ・ 支援が必要な人にとってまぶしすぎない③がよい。
- ・ 居場所がなければならぬか。

基本理念に対する分科会委員からの主な意見（つづき）

案④ 若者が多様な価値観や個性を尊重され、希望をかなえる未来の実現を目指して

若者が多様な価値観や個性を大切にしながら将来への希望を育み、その実現に向けて歩みを進められるようになることを目指します

- ・ 多様な価値観や個性が尊重されるまちづくりが大切だと思う。
- ・ 前回の分科会での「希望を持たなくてはいけないのか」という指摘が気になる。

案⑤ 若者が自分らしく成長し、希望をかなえる未来の実現を目指して

若者が自分らしさを大切にしながら健やかに成長する中で将来への希望を育み、その実現に向けて歩みを進められるようになることを目指します

- ・ 前回の分科会での「希望を持たなくてはいけないのか」という指摘が気になる。

【その他】

◆ 「安心して自らの未来を描ける」という表現を入れる

- ・ 前回の分科会で「夢」「希望」という文言について議論があり、全ての若者が夢を求められるわけではないことは確かにそうだが、それを否定するのはどうなのだろうかと考えた。前向きな表現と「安心」「自分らしく」などという表現を盛り込めば、いろいろな立場の方を包摂できると思う。

◆ 次世代が安心して学び、働き、挑戦し、幸せを実感できるまちの実現を目指して

- ・ 39歳までを含むので「次世代」とした。ひきこもり、就業支援などが計画のメインになると思い、「学び、働き、挑戦」を具体的事項にした。

◆ 「心のつながりが感じられる」「助け助けられる（周囲を支え周囲に支えられながら生きていく）」「無条件の愛を受け取れる」ことを伝えたい

- ・ 若者はやりたいことや希望を必ず持つという印象のものは避けたい。夢や希望をなくした時こそ寄りかけられる、SOSが出せる社会が大切と感じる。夢や希望を失った人も取り残さず支援するという社会像が伝わるような言葉がほしい。
- ・ 個々が描くウェルビーイングの実現など、その人の幸せはその人が決める、人それぞれ幸せの形は違い、それに対し、肯定的な関心が向けられる社会、「幸せな状態で暮らしていける」という言葉だけでは、自分なりの幸せで良いこと、そのために社会がどう関わっていくかが伝わりづらいかもしれない。